

は し が き

当センターの前身である放送教育開発センターの教材研究室では、「高等教育用教材の制作と評価分析」プロジェクトの一環として、学部教育教材の開発・制作と利用・評価に関する研究開発を行った。この学部教育教材の研究開発は、平成2年の大学学部における視聴覚教材に関する諸調査、平成2年のフランス文学についての、平成3年のインドネシア民俗音楽についてのビデオ教材の試作等を踏まえて、平成5年度から本格的な研究開発体制へと入ったものである。

学部教育教材と一口にいうが、大学の学部には、実に多種多様な専門分野がある。したがって、その中から、研究開発の題材として何を選ぶかは、大きな課題の一つである。企画に当たって、プロジェクトでは、開発すべき教材の目標を、教育現場でのニーズが高い、広い範囲で利用の出来る共通教材…というところに定めて検討を行い、その結果、まず、学部教育での資格取得にかかわる科目の教材の開発から取り組むこととした。そして、この条件を満たすと考えられる博物館学芸員、図書館司書、社会福祉関係などの諸科目の中から、映像を十分に活用し、その特性を教材に発揮出来るかどうか…といった諸要因を勘案して、博物館学芸員に関わる科目を、開発の主題として選定したものである。

現在、博物館学芸員養成コースを設置している大学は、4年制大学で164、短期大学で17、合計181校があり、そのコースでは博物館学、博物館実験、視聴覚教育等が必修科目となっている。第一期の教材として、開発することとしたのは、コースの授業のうちでも、特に、民俗学分野の博物館学芸員にかかわる民俗編のシリーズ教材である。このシリーズでは、平成5年度に「博物館学芸員の仕事：有形民俗資料」（3本）、平成6年度に「博物館学芸員の仕事：無形民俗資料」（3本）のビデオ教材と関連印刷教材を完成させた。そして、平成8年度に、研究報告書「学部教育教材 博物館学芸員の仕事—民俗編—」を刊行した。

考古学分野の博物館学芸員にかかわる「博物館学芸員の仕事—考古学編—」は、民俗編に続く、第二期のシリーズとして開発に着手したものである。このシリーズでは、平成7年度に前期分として、「発掘調査」、「資料の整理と保管」、「企画展示」の3本のビデオ教材を、そして、平成8年度に後期分として「常設展示」、「体験学習」、「資料の分析と保存処理」の3本のビデオ教材を完成させた。研究報告については、シリーズの6本が揃い、教材の全体像が明確になったところで刊行する予定であったところ、平成9年度に改組が行われ、新しくメディア教育開発センターが発足することとなった。そこで、既に完成した教材の一部を、新センターに合わせて改定するとともに、新体制のもとで、本研究報告を発表する次第である。

メディア教育開発センターでは、メディア教材の研究開発やその事業化が、大きな目標の一つとされている。センターの新しい研究や事業展開の中でも、本研究報告が有効に活用されることを期待したい。

平成9年3月
主査：福井康雄